

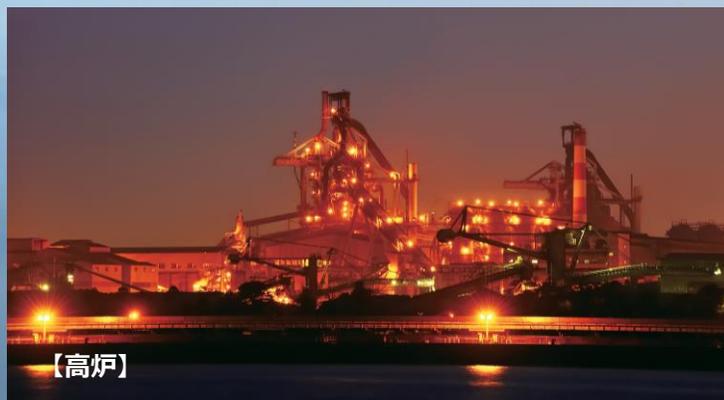


日本鉄鋼協会

鉄鋼 は、臨海部に立地した広大な敷地を有する製鉄所/製鋼所で、「高炉+転炉法」や「電気炉法」でつくられています。「高炉+転炉法」は、オーストラリアなどから輸入された鉄鉱石（酸化鉄）を、還元材としての石炭とともに、高炉と呼ばれる巨大な反応容器に投入、熱風を吹き込んで還元、溶融し、取り出された銑鉄をさらに転炉で精錬する方法です。「電気炉法」は、鉄鋼の優れたリサイクル性を活かし、鉄スクラップを原料として、電気炉で溶解、精錬を行う方法です。精錬された溶鋼は固められ、圧延で所定の形状に成形されます。一つの製鉄所/製鋼所から、見た目も性質も異なる多種多様な鉄鋼製品が産みだされ、自動車や社会インフラ、エネルギーを始めとした様々な需要分野の基礎を支えています。鉄鋼は、産業発展と国民生活の向上に欠くことのできない基礎資材であり、またわが国の重要な輸出品目と位置付けられています。



【転炉】



【高炉】

産業の礎「鉄鋼業」
の世界をご案内します



日本鉄鋼協会 は、個人会員約 8,000 人、維持会員(企業・団体)約 170 から成る学会です。1915 年(大正 4 年)の設立以来、(1)学術と技術の結合、(2)鉄鋼企業の結合、(3)産官学の結合、(4)鉄鋼と他分野の結合、(5)国内と海外の結合、を柱として、鉄鋼および周辺領域に関する学会活動を行ってきました。個人活動をベースとする学会機能と、維持会員会社社員の活動をベースとする業界の技術会的機能の両面を合わせ持っていることが特徴です。

【会員数】(2025年5月末現在)

個人会員：大学等の教員・学生、研究機関や企業の研究者・技術者・管理者など、8,281名

維持会員：日本製鉄(株)、JFEスチール(株)、(株)神戸製鋼所、大同特殊鋼(株)など、167社

【事業規模(2024年度)】

628百万円(経常収益) 会費等497百万円、事業収益125百万円

708百万円(経常費用) 講演講習育成事業、研究・調査事業、学術誌刊行事業、表彰事業等

正味財産：1,435百万円(2024年度期末)

【役員】

役員：理事30名、監事2名

会長：藤田 展弘 日本製鉄株式会社 代表取締役副社長 技術開発本部長

副会長：福島 裕法 JFEスチール株式会社 代表取締役副社長

副会長：埜上 洋 東北大学 多元物質科学研究所 教授

専務理事：小澤 純夫 一般社団法人日本鉄鋼協会



日本鉄鋼協会ホームページ
<https://www.isij.or.jp/>

【協会活動】

1. 会報・論文誌

●論文誌（オープンアクセスジャーナル） ●会報誌

ISIJ International
(英文誌)

鉄と鋼
(和文誌)

ふえらむ



ISIJ International <https://isijint.net/jp/>
鉄と鋼 <https://tetsutohagane.net/>
ふえらむ <https://portal.isij.or.jp/ferrum/>

2. 講演大会

春と秋の年2回開催され、約1,500名/回が参加する協会最大のイベントです。学生ポスターセッションや、日本金属学会との共同セッションもあります。

3. 学術部会

高温プロセス、サステナブルシステム、計測・制御・システム工学、創形創質工学、材料の組織と特性、評価・分析・解析の6つの学術部会があります。各学術部会では、専門を共にする研究者・技術者が交流を行っています。

4. 技術部会・技術検討部会

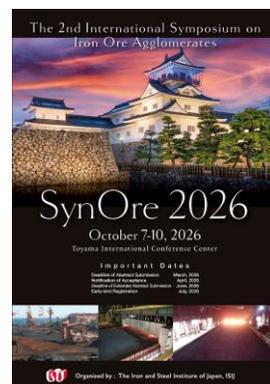
鉄鋼製造プロセスや製品分野、技術分野別に19の技術部会があり、技術向上や人材育成を図るために、維持会員会社の技術者が中心となって交流を行っています。また、他業界にまたがる課題について、3つの技術検討部会で調査・検討を行っています。

5. 国際交流 国際会議や二国間シンポジウムを主催しています。

6. 研究助成 個人(学)への助成で上限8,000万円/年（2年以内、上限300万円/件）、グループへの助成で上限8,000万円/年（3年以内、上限1,500万円/件）、総額上限2億円/年の研究助成を行っています。

7. 人材育成 学生から企業人材まで、これからの鉄鋼業界を支える人材の育成を行っています。また、各種の技術講座やWEB講演会も行っています。

8. 各種表彰制度 顕著な業績を挙げた会員等を、春季講演大会時の表彰式で表彰しています。



日本鉄鋼協会は創立110周年を迎えました。

歴史と伝統と

日本鉄鋼協会は1915年(大正4年)に設立されてから、本年2025年(令和7年)に創立110周年を迎えました。

「日本鉄鋼協会110年史」を発行するとともに、周年記念講演開催や論文誌の特集号発行などを行っています。



日本鉄鋼協会
初代会長 野呂景義



鉄と鋼第一巻総目次表紙
(1915)

【新たな挑戦 ～地球温暖化対策への取り組み】

「高炉+転炉法」により鉄をつくるプロセスは、エネルギー効率に優れた製鉄プロセスとして確立されていますが、地球温暖化問題が顕在化した今、多大なCO₂排出を伴うプロセスに対して、新たな変革の機運が高まっています。日本鉄鋼協会は、産学の英知を結集し、この課題に挑んで参ります。

あなたも科学技術の最先端で活動してみませんか

日本鉄鋼協会 入会案内

<https://www.isij.or.jp/about/individual.html>



【日本鉄鋼協会 事務局】

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館5階
TEL.03-3669-5931